

# ひと

憲法9条を語るため、ねずみ男に扮して全国行脚を始めた

ふくぎき やすお  
福崎 裕夫 さん(51)

改憲の動きに危機感を覚え、水木しげるさんの漫画で知られる「ねずみ男」の格好をして、沖縄から全国行脚を始めた。出会う人と憲法を語り合いながら、来春まで1年かけて北海道へ。6月は鹿児島から長崎などをめぐる。

でも、なぜねずみ男? 「鬼太郎には武器になるチャンチャンコ、げた、髪の毛針がある。ねずみ男にはない。非武装の姿が憲法9条に重なるんです」

31歳から14年間、広島県上下町(現・府中市)で町議会議員を務めた。平和運動にも携わったが、「護憲運動は組織の中だけで完結してしまっただけの思いが強い。だから、持ち歩く旗には「憲法第9条」とだけ。「守れ」とは書かず、改憲や加憲の立場の人とも対話していく。



2年前に舌がんを患った経験が大きい。がん経験者が集う会を広島で立ち上げた。会では一人ひとりが聞き役となり、どう前向きに生きていくかを語り合う。「会を通じて、意見の違う人の話も素直に聞けるようになった」と言う。

紹介を受けた民家や寺に泊まり、頼まれれば戦争の非人間性を訴える創作の一人芝居を披露する。沖縄・宮古島では、「戦争放棄は非現実的だ」という島の男性に呼び止められ、30分近く話し込んだ。「こちらの思いは伝わったと思う」。国民投票法が成立した今、多くの人と対話を深めていくことの重要性をこれまで以上に感じている。

文 藤本 久格  
写真 寺脇 毅